

心理学部 臨床心理学科

総合型選抜
課題レポート

課題レポート問題

以下の文章を読み、【設問】に答えなさい。

私は、いまの日本の子どもたちが、コミュニケーション能力が低下しているとは考えていない。この点はあとで詳しく記すが、もちろん、では問題がないかという、そうでもない。

まずその一点目が、コミュニケーションに対する意欲の低下という問題だ。

いまの子どもたちは競争社会に生きていないから、コミュニケーションに対する欲求、あるいは必要性が低下しているのではないか。

私はこのことを、「単語で喋る子どもたち」という言葉で説明してきた。

昨今、小学校の高学年、あるいは中学生になっても、単語でしか喋らない子どもが増えている。喋れないのではない。喋らないのだ。

そもそも子どもは、幼児期には単語でしか喋らない。それが成長するにつれて、他者と出会い、単語だけでは通じないという経験を繰り返し、「文」というものを手に入れていく。この言語習得の過程が崩れているのではないかという危惧がある。

たとえば、兄弟が多ければ、「ケーキ！」とだけ言ったところで、無視されるのが関の山だろう。しかしいまは少子化で、優しいお母さんなら、子どもが「ケーキ」と言えば、すぐにケーキを出してしまう。あるいは、もっと優しいお母さんなら子どもの気持ちを察して、「ケーキ」と言う前にケーキを出してしまうかもしれない。

子どもに限らず、言語は、「言わなくて済むことは、言わないように言わないように変化する」という法則を持っている。「ケーキ」をどうしたいのかを聞かずにケーキを出してしまっただけでは、子どもが単語でしか喋らなくなってもしかたない。

繰り返すが、単語でしか喋れないのではない。必要がないから喋らないのだ。「喋れない」のなら能力の低下だが、「喋らない」のは意欲の低下の問題だ。

これは一義的には、まず家庭の問題だろう。「ケーキ、ケーキ」と繰り返す子どもには、父親、母親が「ケーキをどうしたいの？」と聞いてあげなければならない。あるいは、「お父さんやお母さんはわかるけど、それじゃあ他の人にはわからないよ」と言ってあげなければならない。

しかしこれは、もはや家庭だけの問題でもない。

学校でも、優しい先生が、子どもたちの気持ちを察して指導を行う。クラスの中でも、いじめを受けるのはもちろん、する方だっていやなので、衝突を回避して、気のあった小さな仲間同士でしか喋らない、行動しない。こうして、わかりあう、察しあう、温室のようなコミュニケーションが続いていく。

あるいは、以下のような問題もある。

全国を回っていると、小学校一年生から中学校三年生まで三〇人クラス、組替えなしといった地域がたくさんあることに気がつく。こういった環境で、熱心な先生が、表現教育を行おうと張りきって、「さあ、今日はスピーチの時間です。太郎君、前に出てきてください。先生もみんなもよく聞いてるからね、三分間、何喋ってもいいですよ」

と言うわけだが、これではスピーチは成立しない。なぜなら、太郎君以外の二九人は、もう太郎君のことをいやというほど知っているから。太郎君も、いまさら話すことなど何もない。少子化がボディーローのように効いて、子どもたちから表現への意欲を奪っていく。

表現とは、他者を必要とする。しかし、教室には他者はいない。

わかりあう、察しあうといった温室の中のコミュニケーションで育てられながら、高校、大学、あるいは私の勤務先のように大学院生になってから、さらには企業に入ってから、突然、やれ異文化コミュニケーションだ、グローバルスタンダードの説明責任だと追い立てられる。

繰り返す。子どもたちのコミュニケーション能力が低下しているわけではない。しかし年々、社会の要求するコミュニケーション能力は、それを上回る勢いで高まっていつている。教育のプログラムは、

それについて行っていない。

子どもたちは、このギャップを敏感に感じ取り、大人になることを嫌がってしまう。もちろん、大多数の子どもたちは、どうかそこは折りあいをつけてうまくやっていくのだろう。しかし、少し心の弱い子は、引きこもってしまったり、ニートになってしまったり、あるいは心を病んでしまったりする。それらは決して、その子の努力が不足していたとは言いきれない側面が多々ある。だって、優しい先生も、優しいお母さんも、異なる意見を持った人とうまくつきあっていく方法なんて誰も教えてくれなかったのだから。みんなわかってくれたのだから。

そのような環境で子どもを育ててしまった以上は、その子どもたちが「どうして、みんなわかってくれないの？」と感じてしまうことを、単純に甘えだと切り捨てることはできないだろう。

(出典：平田オリザ (2012) わかりあえないことから コミュニケーション能力とは何か 講談社)

【設問】下線部(異なる意見を持った人とうまくつきあっていく方法)について、本文を参考にすると、周囲はどのように関わる(あるいは環境を整える)とよいと筆者は述べているか、書きなさい。また、異なる意見を持った人とうまくつきあっていく方法として、具体例をいくつか挙げながら、自分の考えを述べなさい。すべて含めて、1200字以内にまとめなさい。